

作成日 : 2009年01月19日

最終改訂日 ; 2015年01月13日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : 過酸化水素

会社名 : キシダ化学株式会社

住 所 : 兵庫県三田市テクノパーク14番10

担当部門 : 環境保全グループ

電話番号 : (079) 568-1531 FAX番号 : (079) 568-1644

電子メールアドレス : kankyou@kishida.co.jp

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性		健康有害性	
爆発物	区分外	急性毒性 経口	区分4
可燃性/引火性ガス	分類対象外	経皮	区分5
エアゾール	分類対象外	吸入(ガス)	分類対象外
支燃性/酸化性ガス	分類対象外	吸入(蒸気)	区分3
高压ガス	分類対象外	吸入(粉塵・ミスト)	分類できない
引火性液体	区分外	皮膚腐食性/刺激性	区分1A-1C
可燃性固体	分類対象外	眼に対する重篤な 損傷性/眼刺激性	区分1
自己反応性化学品	区分外	呼吸器感作性	分類できない
自然発火性液体	区分外	皮膚感作性	分類できない
自然発火性固体	分類対象外	生殖細胞変異原性	区分外
自己発熱性化学品	区分外	発がん性	区分外
水反応可燃性化学品	分類対象外	生殖毒性	区分2
酸化性液体	区分1	授乳に対する影響	分類できない
酸化性固体	分類対象外	特定標的臓器毒性 (単回暴露)	区分1(呼吸器、中枢 神経系)
有機過酸化物	分類対象外	特定標的臓器毒性 (反復暴露)	区分1(肺) 区分2(血液)
金属腐食性物質	分類できない	吸引性呼吸器有害性	分類できない

環境有害性	
水生環境有害性（急性）	区分2
水生環境有害性（慢性）	区分外
オゾン層への有害性	分類できない

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語：危険

危険有害性情報：火災又は爆発のおそれ：強酸化性物質

飲み込むと有害

皮膚に接触すると有害のおそれ

吸入すると有毒

重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷

重篤な眼の損傷

生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い

呼吸器、中枢神経系の障害

長期又は反復暴露による肺の障害

長期又は反復暴露による血液の障害のおそれ

水生生物に毒性

注意書き：熱から遠ざけること。

衣類及び他の可燃物から遠ざけること。

防火服・防災服・耐火服を着用すること。

保護手袋・保護眼鏡・保護面を着用すること。

可燃物から遠ざけること。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

粉塵・煙・ガス・ミスト・蒸気・スプレーを吸入しないこと。

保護手袋・保護眼鏡・保護面・保護衣を着用すること。

保護眼鏡・保護面を着用すること。

使用前に取扱説明書を入手すること。

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

必要に応じて個人用保護具を使用すること。

環境への放出を避けること。

GHS 分類区分に該当しない他の危険有害性

腐食性物質

重要な徴候及び想定される非常事態の概要
皮膚障害、前眼部障害又は気道・肺障害

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：化学物質(水溶液)
化学名又は一般名：過酸化水素
別名：過酸化水素水
化学特性(化学式等)： H_2O_2
CAS番号：7722-84-1
濃度又は濃度範囲(含有率)：35%
官報公示整理番号(化審法・安衛法)：1-419
化学物質管理促進法：非該当。
労働安全衛生法(通知対象物質)：第126号 過酸化水素
毒物劇物取締法：劇物

4. 応急措置

吸入した場合

被災者を空気の新鮮な場所に移動させ安静にし、直ちに医師の処置を受ける。
必要に応じて、人工呼吸や酸素吸入を行う。

皮膚に付着した場合

汚染された衣類、靴等を速やかに脱ぎ、直ちに製品に触れた部分を水又は微温湯を流しながら石鹸を使ってよく洗浄する。
外観に変化がみられたり、痛みが続く場合は直ちに医療措置を受ける手配をする。

目に入った場合

直ちに清浄な水で最低15分間目を洗浄した後、眼科医の手当を受ける。
洗眼の際、瞼を指でよく開いて、眼球、瞼の隅々まで水がよく行きわたるように洗浄する。

飲み込んだ場合

無理に吐かせてはならない。腐食性の製品なので、吐出させるとかえって危険が増す。
水で口の中を洗浄し、直ちに医師の処置を受ける。
被災者に意識のない場合は、口から何も与えてはならない。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

25%以上の液が皮膚・粘膜に触れると、激しい炎症を起こす。
蒸気は眼、気道と肺を刺激する。
液体と接触すると、皮膚に漂白作用と刺激があり、眼にはただれが起こる。
眼、鼻と咽頭の粘膜ならびに皮膚の炎症と痛み、咳。
吸入：咽頭痛、咳、眩暈、頭痛、吐気、息切れ。
皮膚：白斑、発赤、皮膚熱傷、痛み。腐食性。
眼：発赤、痛み、かすみ眼、重度の熱傷。腐食性。
経口摂取：咽頭痛、腹痛、腹部膨満、吐気、嘔吐。

応急措置をする者の保護

救助者はゴム手袋と密閉ゴーグル等の保護具を着用する。

5. 火災時の措置

消火剤：この製品自体は、燃焼しない。

当該物質を巻き込んだ周辺火災に適切な消火剤を使用する。

特有の危険有害性

可燃性物質を発火させることがある。

多くの反応により、火災や爆発を生じることがある。

熱や金属触媒と接触すると、火災および爆発の危険性がある。

特有の消火方法

消火作業は、風上から行う。

周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。

火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。

周囲の設備等の輻射熱による温度上昇を防止するため、水スプレーにより周辺を冷却する。

消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。

消火を行う者の保護

消火活動は風上より行い、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入りを禁止する。

こぼれた場所はすべりやすいために注意する。

漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。

環境に対する注意事項

流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。

漏出物を直接に河川や下水に流してはいけない。

封じ込め及び浄化の方法・機材

少量の場合には、吸着剤で吸着させ取除いた後、残りをウエス、雑巾等によく拭き取る。

おがくず他可燃性吸収物質に吸収させてはならない。

大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策(局所排気・全体排気等)

取扱いは、換気の良い場所で行う。

取扱い場所の近くに、緊急時に洗眼及び身体洗浄を行なうための設備を設置する。

漏れ、あふれ、飛散しないようにし、みだりに蒸気を発生させない。

発散した蒸気を吸い込まないようにする。

屋外での取扱いは、できるだけ風上から作業する。

眼、皮膚、衣類に付けないこと。

取扱う場合は、局所排気内、又は全体換気の設備のある場所で取扱う。

安全取扱い注意事項

みだりにエアロゾル、ミストが発生しないように取扱う。

接触回避

可燃性物質、還元性物質、食品や飼料、強塩基、金属から離しておく。

衛生対策

保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

保護手袋および保護眼鏡・保護面を着用すること。

取扱い後は、手、顔等をよく洗い、嗽をする。

保管

安全な保管条件

混触危険物質と一緒に保管しない。

可燃物から離して保管すること。

容器を密栓してはならない。(専用のキャップ使用)

施錠して保管すること。

直射日光を避け、換気の良い冷暗所で保管する。

安全な容器包装材料

アルミニウム、合成物質およびガラスは容器として耐久性がある。

容器を密栓してはならない。(専用のキャップ使用)

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策

取扱いについては、全体換気装置を設置した場所で行う。

蒸気または煙やミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。

取扱い場所の近くに、目の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。

許容濃度

ACGIH (1990 年度提案) : TWA 1 ppm

保護具

呼吸器の保護具：簡易マスク

手の保護具：保護手袋

眼の保護具：保護眼鏡（ゴーグル型）

皮膚及び身体の保護具：保護服、保護長靴、保護前掛け

9. 物理的及び化学的性質

外観(物理的状态、形状、色など)：無色透明の液体

臭い：僅かに刺激臭

pH：2～4 (20℃)

融点・凝固点：－33～－26℃

沸点、初留点及び沸騰範囲：107℃

蒸気圧：32 hPa (30℃)

比重(相対密度)：1.13 g/cm³

溶解度：水とは自由に混合。

分解温度：125℃以上

10. 安定性及び反応性

反応性

強力な酸化剤であるが、還元剤として働く場合もある。

白金、パラジウム、金、銀などの金属のコロイド、酸化マンガンや酸化コバルト等の金属酸化物、アルカリ、重金属塩(特にアルカリ性において)により接触的に分解される。

酸性ではかなり安定化され、リン酸、尿酸、馬尿酸、バルビタール、アセトアニリドなどは負触媒となる。

強力な酸化剤であり、可燃性物質や還元性物質と激しく反応し、とくに金属が存在すると火災および爆発の危険をもたらす。

繊維、紙など多くの有機物を侵す。

化学的安定性

低濃度(30%以下)でも酸素を発生しながら分解する。

危険有害反応可能性

織物を含む有機物と接触するとき、火災が発生することがある。

加温や光の影響により分解し、酸素を生じて火災の危険性を増大させる。

避けるべき条件：混触危険物質との接触。

混触危険物質：金属粉末、強酸化剤、還元剤、強塩基、水反応性物質

危険有害な分解生成物：水素

11. 有害性情報

急性毒性：経口 ラット LD₅₀ 801 mg/kg

吸入 ラット LC₅₀ 2 mg/L/4H

発がん性：IARC グループ3（ヒトに対する発がん性について分類できない）

特定標的臓器毒性、単回暴露：眼、皮膚に対して腐食性を示す。蒸気は気道を刺激する。経口摂取すると血液中に酸素の気泡を生じ（塞栓症）、ショックを引き起こすことがある。

特定標的臓器毒性、反復暴露：高濃度の吸入により、肺が冒されることがある。毛髪に影響を与え、毛髪脱色することがある。

1 2. 環境影響情報

生態毒性：水生生物に対して毒性が強い。

土壤中の移動性：物理化学的性質からみて大気、水域、土壤環境に移動する可能性が有る。

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物

多量の水で希釈後中和処理し、排水基準の範囲内にて排水する。

或いは、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理する。

毒物及び劇物の廃棄の方法に関する基準に従うこと。（毒劇法第15条の2）

汚染容器及び包装

空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

1 4. 輸送上の注意

国際規制

国連番号：2014

品名（国連輸送品名）：過酸化水素（水溶液）（必要に応じて安定剤を加えたものであって、濃度が20質量%以上60質量%以下のものに限る）

国連分類：クラス5.1/8

容器等級：II

海洋汚染物質：非該当

国内規制

陸上 毒物及び劇物取締法：劇物

海上 船舶安全法：酸化性物質類・酸化性物質

港則法：その他の危険物・酸化性物質類（酸化性物質）

航空 航空法：酸化性物質類・酸化性物質

追加の規制

道路法：車両の通行の制限

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策

毒性があるので、目に入れたり蒸気を吸収しないこと（保護具の使用が望ましい）。

輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等が無いことを確認する。

転倒、落下、破損が無いように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

該当法規に従い、包装、表示、輸送を行う。

15. 適用法令

化審法：優先評価化学物質（法第2条第5項）

労働安全衛生法：危険物・酸化性の物（施行令別表第1第3号）

名称等を表示すべき危険物及び有害物（法57条1、施行令第18条）

名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2、施行令第18条の2別表第9）

毒物及び劇物取締法：劇物（法第2条別表第2）

水質汚濁防止法：指定物質（法第2条第4項、施行令第3条の3）

海洋汚染防止法：有害液体物質（Y類物質）（施行令別表第1）

航空法：酸化性物質類・酸化性物質（施行規則第194条危険物告示別表第1）

船舶安全法：酸化性物質類・酸化性物質（危規則第3条危険物告示別表第1）

港則法：その他の危険物・酸化性物質類（酸化性物質）

（法第21条第2項、規則第12条、危険物の種類を定める告示別表）

道路法：車両の通行の制限（施行令第19条の13、（独）日本高速道路保有・債務返済機構公示第12号・別表第2）

外国為替及び外国貿易法：輸出貿易管理令別表第1の16の項

労働基準法：疾病化学物質（法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第4号1）

16. その他の情報

引用文献

- 1) 16514の化学商品 化学工業日報社
- 2) 化学品かんたん法規制チェック Web 日本ケミカルデータベース
- 3) 化審法 化学物質 改訂第9版 化学工業日報社
- 4) 化学大辞典 共立出版
- 5) 化学物質の危険・有害便覧 中央労働災害防止協会
- 6) 化学品法令集 化学工業日報社
- 7) 環境六法 中央法規
- 8) 国際化学物質安全性カード（ICSC）日本語版
- 9) 危険物等データベース登録確認書
- 10) 危険物ハンドブック ギュンターホンメル編 新居六郎訳 シュプリンガー・フェアラーク東京
- 11) GHSモデルMSDS情報 中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP
- 12) GHS分類結果データベース nite（独立行政法人 製品評価技術基盤機構） HP
- 13) J I S K 8 2 3 0-2006
- 14) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances(1985-86)
- 15) Merck Index Twelfth Edition
- 16) ACROS Catalogue of MSDS
- 17) Sigma-Aldrich Material Safety Data Sheets
- 18) Alfa Aesar Material Safety Data Sheets

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データにもとづいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては必ずしも安全性を十分に保証するものではありません。全ての化学製品には未知の有害性が有り得るため、取扱いには細心の注意が必要です。御使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定下さるようお願いいたします。また、特別な取扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上で御使用ください。